

◎図書館教育担当者研修会が行われました。(11月21日 15時半～16時半)

津南町、十日町市内の小・中学校から、図書担当の先生方33人にお集まり頂きました。今年度の子ども読書推進活動報告をお聞き頂いた後に、班に分かれ、お一人ずつ、推し本を紹介して頂きました。じっくりと聞き入っていらっしゃる先生方のご様子が印象的な、素晴らしい時間でした。その後、ホールで読み聞かせをさせて頂きました。



『ひびわれ壺』(菅原裕子/訳)と『かないくん』(谷川俊太郎/文)を読みました。物音一つしない静けさに包まれた空間でした。「推し本」も「読み聞かせ」も、「自分が体験することで、改めて良さを実感した」「子どもたちが本に親しむためには、教師が本を好きになることが大切だと実感した」などのお声を頂きました。日頃から子ども読書推進の活動にご理解頂き、感謝致します。★先生の「推し本」リストは別に配信いたします。

◎ブックトーク鑑島小3・4年生 テーマ「クリスマス」



街がクリスマスの飾りで彩られてくると、わくわくしますね。クリスマスの飾りにも意味があるのをご存知ですか？クリスマスの緑は、1年中葉が茂る常緑樹の緑で永遠を表し、赤は十字架に磔になったイエス・キリストの血の色で、神の寛大な心や愛を表しているのだそうです。また、クリスマスのリースの輪は永遠を表し、ヒイラギ等の尖った葉をつけるのは魔除けの意味があるのだとか。ツリーの上の星は「ベツレヘムの星」。パレスチナ、エルサレムのことにも少し触れ3つの宗教の聖地であるがゆえに起きている紛争の話もしました。子どもたちは真剣な表情で話を聞いていました。



ツリーを飾り、プレゼントを貰い、ごちそうやケーキを食べる…ではない、元々のクリスマスとは？を考えるきっかけになればと思いました。でも、少し難しかったかな？終わってからそう思っていたところ、先生から子どもたちの感想を頂きました。

驚いたのは、紹介した本の中で読みたいと思った本は？の質問に、多くの子どもたちが『クリスマス』という本当のクリスマスを知ることができる本を選んでいました。また、次はどんなテーマが良いか？の質問に多くの子どもたちが「戦争」と答えていました。

「本当のクリスマスのことを知りたいからです。」と力強く書かれた子どもたちの字を見ながら、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。子どもたちの瞳がキラキラと輝いていたのがとても印象的でした。

皆さま、素敵なクリスマス、そして良いお年をお迎えください。

★ブックトークで紹介した絵本★ クリスマスにおすすめの美しい絵本です

『クリスマス』バーバラ・クーニー作 安藤紀子訳 ロクリン社(長崎出版)

『神の道化師トミー・デ・パオラ』ゆあさふみえ訳 ほるぷ出版

『ちいさな曲芸師バーナビー』バーバラ・クーニー作 末盛千枝子訳 現代企画室

『急行北極号』クリス・ヴァン・オールズバーク作 村上春樹訳 あすなろ書房

